

第1回 王寺町義務教育学校設置検討懇話会 意見概要

日時：平成28年5月18日（水） 午後4時～午後6時

会場：王寺町役場3階 応接会議室

・小中一貫教育について

- 簡単にまとめると、小学校から中学に進学すれば何故かいじめが増える。そして何故か不登校が増える。これが「中1ギャップ」と言われているもの。また小学5・6年生から算数嫌いが増えてくる。
- それは何故かという、子供たちの成長が以前に比べ2年程前倒しになっている。昔は小学生は安定して発達し、中学生になると成長のばらつきはあるものの3年間で発達した上で、高校に進学していた。これが1946年に「6・3制」が導入されたときの状況。
- しかし子どもの成長が2年前倒しになってきていることにより、「6・3制」という分け方を見直して「5・4制」や「4・3・2制」で行っているところもある。例えば東京都品川区や京都市等は10年位前から、また箕面市や仙台市でも行われていた。
- この流れをきっちり制度化するというので、今年の4月から義務教育学校が創設された。

●これは文部科学省の指導で、何年度までにやりなさいというわけではないのか。

○そうではない。

●そうすれば学習指導要領やカリキュラムは王寺町独自の運営が可能になるのか。

- 学習指導要領には「何年生には何を教える」という事が書いている。これを義務教育学校の場合、柔軟に動かしてよいとされている。また指導要領に無いことでもプラスαを取り入れていく事ができる。
- つまり義務教育学校では学年を前倒ししての授業展開や学習指導要領に書いていないことでも柔軟に行っていくことができる。
- 例えば、品川の学校は品川独自のカリキュラム、仙台の学校は仙台独自のカリキュ

ラムを作っている。さらに仙台の学校では言語学習の授業を独自に取り入れている。
○このように義務教育学校ができれば、王寺町独自のカリキュラムを作ることができる。関西でもこの学校は違うといわれるようなことをやれる。

●（独自のカリキュラムだと）進んでいて転校時に問題が生じるのではないか。

○補習で対応する。これは教員の理解が得られれば十分にできる。ただし、良い先生を集める必要がある。

●義務教育学校になって、いじめ等の中1ギャップは改善されたか。

○東京都品川区では、「6・3制」を「4・3・2制」に変更した結果、中1ギャップは大幅に改善された。これを受けて国でも制度化する動きになった。

●教育の質の向上もあるが、自殺等の悲しい事件が多いので義務教育学校に替わることにより、このような事件がなくなってほしい。

○子どもの成長に応じて、指導の方法を変えなければならない。先生の関わり方も変える必要がある。そこのところを教員に勉強してもらいたい。

●現在、小・中学校両方の免許を持っている教員はどれ位いるのか。

○小学校教員が中学校の免許を持っているのが約60%、中学校の教員が小学校の免許を持っているのが約9%である。

●メリットが多いのは理解できているが、デメリットは無いのか。一部では人口減少による統合の手段とされるのがデメリットといわれている。それ以外はないのか。

- 実際問題としては無い。もしあるとすれば教員の慣れの問題がある。例えば「4・3・2制」にすれば中間の3をどうするのか、教員に勉強し直してもらわなければならない。
- 小中一貫は2種類あって、過疎地で小学校・中学校各々単独として成り立たないの
で小中一貫で運営するところもあるが、今議論しているのはもっと規模の大きい学
校の話である。この場合に大変な作業はカリキュラムを作成することで、教員が
集まってやっている。
- 小中免許を両方取りやすくするよう文科省でワーキングを作って免許法の改正を
検討している。今、いる教員の再教育も課題である。

- 奈良県では小中両方免許を持っている場合は、採用試験で加点している。このこと
から、保持者は増えてきている。
- デメリットは、教員である。まず校長が1人であること。2つ目は、悪癖だが学校
現場は職員会議で全てを決めている。校長がイニシアティブを取ってやるよう進め
ているが習慣は中々変わらない。大学なら、今まで教授会で何でも決めていたのを、
法改正で経営者で決めていくことになっているが、まだまだ残っている。これを1
つにすることの難しさ。つまり中学校の先生は教科で教えるというやり方、小学校
の先生は朝からずっと1人で教えるやり方しか知らない。
- 小中一貫教育が成功しているのは、おそらく新しい取り組みだから、よろしくねと
いったことがあると思う。デメリットもないこの新しいことをするなら、教員のキ
ャパ(教員定数)も決まっているのだから、王寺町もできるだけ早くに行う方が良い。
- 小学校の教員と中学校の教員による職員会議を融合、決定していくことは校長1人
では大変であり、教育長のバックアップ、さらには制度も変わったので町長のバッ
クアップも重要である。両方の免許を持った教員の確保も人事権は県であるが、新
しい取り組みをするからと早く、動けば考慮されると思う。
- 義務教育学校免許の検討はスタートしているのか。

- 公式には行われていないが、3年ぐらい前からワーキンググループは作られている。
- また義務教育学校を進めるには、強い校長が必要。というのは小学校と中学校では
教員の文化、感覚が違うため、それを1つにまとめていくには強い校長が必要とな
ってくる。

- 小中学校の教員は今、一番厳しいときと認識している。例えば、教員の英語力が問
われているが、英検1級を取得している割合は低い。そんな中で英語の授業を特色
あるようにしたいと考えても、実行してくれる教員がいない。そうすると子どもた

ちに効果が出ない。厳しい時期だと認識しているが、教育でもって王寺町の将来の人づくりをしなければならないし、他方、施設の老朽化というのも1つのきっかけである。

- またリーダーシップを取れる校長先生と優秀な教員を招く事が、重要だと認識した。
- 現在、町には校園長会という組織があるので、どこかで参加してもらい、現場の思いも聴いてみたい。

○今現在、王寺町はこの中1ギャップのような状況にあるのか。義務教育学校ができることで、中学校に進学するという意識がなくなるのではないか。また王寺は東京に比べ人口が少ないので、クラス数が少なく、クラス替えなどどうなのか。

- データは古いが、教育振興ビジョンに王寺町の不登校の数が掲載されており、小学校は全体の0.1%程度、中学校は0.9%と奈良県や全国平均に比べ低い水準となっている。

○王寺町は恵まれていますね。

- 先日保護司の方がこられて、問題行動を起こす子どもがいないと言われていた。それがデータ上にも表れており、いわゆる中1ギャップが少ない。町の取組として行っている幼・小・中の交流事業もこういったところに現れているのではないか。

○中1ギャップの点で言うと全く無いわけではなく、不登校や騒がしい生徒がいるので、(少人数学級編制加配教員を受けて)クラス数を増やして対応された経緯がある。3クラスの時はいろいろあって、クラス数を増やすことで改善された。

- 他府県ではもっと中学では問題があるところが多い。(2Fから椅子が降ってくる。)
- それでは事務局より「王寺町の小中学校の設置状況について」の説明をお願いします。

・王寺町の小中学校の設置状況について

○施設がどうなっているのか、子どもの数の変遷を説明していただいた。

●私の頃は1学級60人。今は平均20数人。しかし現在の教員は非常に忙しい。事務的なものが増えているということなので、教員が教育に専念するために人的な充実も必要ではないか。

○現在は国の基準で教員は児童生徒何人に一人と決まっている。国では教員の充実や専門家の配置等の要望は挙げているが予算措置が難しい。今年も加配がないということで、文科省から頼まれアドバイスして予算を少し復活した。

○チーム学校といわれる、教員以外の専門のスタッフを学校に配置するという案も与党議員にも理解いただいているが十分予算化されていない。

○授業だけをやっている欧米型の教師と、生徒指導まで行う日本型の教師は違う。児童生徒数の減少だけを見るのではなく、日本型の教師がきちんと子どもたちと向き合うためには財政的な手当が必要であり、財務省向けの資料を文科省で作成中である。

○私の育った鳥取県(片山知事当時)では、公共工事費を減らして、教員数を増やし、学力など隣の島根県と大きな差が出た。一つの自治体で人を抱えるのは大変である。国や県の動きの中で町も乗っていくことが有効である。

●小学校が3つ、中学校2つの現状をどのように変えていくのか。

○1つは義務教育学校を作る。そして2中学校を前提に考えている。御所市では人口減少から10以上の学校を統合するという意見が出されている。王寺町はそこまで町域も広くは無いが、2中学校を基本にお互い切磋琢磨するような形が必要であり地勢的にも馴染んでいる。そうすると3小学校をどう見直していくのかというところである。

●子どもの教育は学校・家庭・地域と言われている。個人的には、自治連合会としても校区による地区編成をしていかなければならないと考えている。そうすることによって連携しやすくなるのではないかと思う。

○藤井地区の子どもは、登校時など、特に小学校1年生など泣きながら上級生に必死で付いていっている。2学期になれば力も付き大丈夫である。
北小学校が出来た時に、祖父母は、昔を惜しんで王寺小学校に行かせたいと反対した。

●校区を2つにした場合、実際どれくらいの児童数、クラス数になるのか、クラス替えが出来るのは良い、人間関係などが保護者としては気になる場所である。

○2 中学校を前提にということなので、今の王寺小学校校区をどこかで分けなければならないのは必須となる。規模的にバランスが取れ自治会が分かれないう、線引きを行い、その場合の児童生徒数、クラス編成といったシュミレーションを次回示していきたい。

○中学校に進学することにより、違う小学校からきた生徒と一緒にすることは当然である。制度を見直せば、将来的には安定する。

●畠田8丁目、9丁目の子どもは南小学校の方が近いというクレームがある。

○次回、案を出してもらいたい。そのときの学校規模も合わせて議論したい。

○余談であるが、品川区は当時の教育長が強い方で義務教育学校を立ち上げると同時に校区をなくした。最初は心配もあったが、10年間上手く運営できている。

●友人が東京都へ引越し、小中一貫校へ子息が入学された。この学校では5年生から部活動が始まり定期試験もあるということで、友人は大変驚いたということだが、私も随分差がつくと感じている。

●写真を見たが、施設が立派で驚いた。

○2つの中学校区はソフトランディングとして良い案だと思う。部活動は欧米には無く日本文化である。教員は残業でなく業務的内容として実施している。しかしこれは小学校には無い。その部分をクリアするには、本当に早く着手する事が肝心。教育を良くするために施設もきちんとするというスタンスは素晴らしい。出来るだけ早くして、県外・県内からも視察に来られるようなものにしていただきたい。
今でこそメンタルの部分は専門家に任すことになっているが初期は教員が担って

いる。教員の定数法もあり、国家負担法も改正され、1/2 になったが、実質的には30%を切っている。人を町単独で確保することは、将来的な負担にもつながり、難しいので、解決するためにも出来るだけ早く進めた方が良い。そうすれば、人口増にもつながっていく。

- 色々ご意見をいただいた。2 中学を前提、校区をどうするか等、これから進めるために、できるだけ早く施設整備のプランを作って行きたい。